



# 春夏秋冬

2017  
vol. 9  
季刊発行

## eco 情報



### 「日除け」

夏の家は、いかに太陽の熱を遮るかにつきます。熱の大部分は窓ガラスから入ってきます。サッシをペアガラスにしたり熱伝導の小さい樹脂サッシにするのも有効ですが昔ながらの日除けは、究極のエコ対策です。熱は家に入るまえの外部で遮断するのがベストです。麻で出来た日除けは光も風も通します。

この日除けはオリジナルデザインで自宅にあった「春夏秋冬」の書をモチーフに藍染めで造りました。贅沢な一品です。

## ワン ジャ 王家 サイ カン 菜館

中田家の嫁、王さんが教える中国の家庭料理。ぜひ試してください。



### file No.009「薬膳湯(薬膳スープ)」

夏の疲れと食欲不振に効果があるといわれています。



#### 材料

- ◇大棗(なつめ) …… 適量  
虚弱による疲れ、息切れ、めまい、食欲不振
- ◇竜眼肉(桂元肉) … 適量  
疲れ、無気力、下痢、めまい、不眠、記憶力減退
- ◇枸杞(クコ) …… 適量  
肝臓に脂肪が溜まるのを防ぐ、ホルモンの分泌を盛んにする

- 作り方 ①分量は人数に合わせて、お好きな量を入れてください。  
②これらの材料を鍋にかけ30分、材料の醸し出す味で 十分においしくお召し上がれます。  
③お好みによって氷砂糖を加えてもいいかもしれません。



### \*三代目通信\*

この情報誌と共に歩んだ娘も早いもので大学3年生。夏休みは就活を見据えて都内の設計事務所ですインターン生として第一歩を踏み出す。

CAD を教えてもらうことを楽しみにしているが、どんな試練が待ち受けていることか、ちょっと不安も残る。

### ソーラーサーキットの家



発行：有限会社 小山建設  
羽生市中央2-6-3  
☎048-561-6878  
info@e-hous.co.jp  
編集長：中田 新一

●web もご覧下さい  
<http://www.e-hous.co.jp/>

一年中快適に過ごせるソーラーサーキット住宅!



一階の開放的な空間

快適に過ごせる小屋裏



ぜひ体感してみてください。考え方が変わるかも!?

## 「夏の体感フェア開催」

この体感ハウスは15年前に、冬の温かさ、夏の涼しさを体感してもらうために建てました。このモデルハウスは目で見るのではなく、体で感じてもらいたいです。

まず床下を見てください。湿度が高く、カビ臭かったらアウトです。温度計、湿度計もありますが、あなたの体で感じてください。一階は開放的な空間になっています。27坪エアコンは8畳用1台だけです。普段は使っていません。涼しさのヒミツは当日説明したいと思います。二階は2部屋に書斎がありますが、各部屋にエアコンは、ありません。寝室のエアコンは体によくありませんよ。

続けて小屋裏へ進んでください。普通の家の小屋裏は暑さとホコリで住める環境には、ありません。当体感ハウスでは、真夏でも32度止まりです。一般の家では40度から50度にもなります。だから2階の寝室は夜中でも暑いのです。小屋裏は収納庫として使えますので、2階の坪数を減らすことができます。この地方に建てる家は、高温多湿な夏と冬の寒さに対応した家を要求されます。

この体感ハウスには夏の暑さ、冬の寒さに対応できるヒミツが隠されています。是非自身の体で体感してください。

### お知らせ

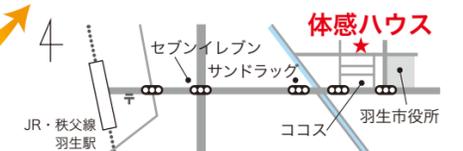
小山建設は夏涼しく冬温かい外断熱・二重通気工法「ソーラーサーキット」をおすすめしています!

## 2017 夏の 体感フェア

8/5(土)・6(日) 午前10時～午後4時

会場：当社体感ハウス

薬膳教室同時開催



羽生市東6-5-13 ☎048-563-1123

# report OB 訪問

小山建設で建てられた住まいを訪問し、今の住み心地等をうかがいました。

今後より良い家づくりをするためのヒントを見つけたいと思います。



四季の懐石「桜茶屋」

さいたま市岩槻区にある「桜茶屋」出会いは40年前、羽生市と縁のある人の紹介で先代が自宅を建てることに、住まいと共に庭園作りにも力を入れ、桜の木が好きだった先代は庭の至る所に配植をし、月日が流れ庭が落ち着いたころ。



自身の料亭経営を子供たちに譲り引退し70歳の時に自宅を「桜茶屋」としてオープンあれから四半世紀、先代は2年前に他界されたが娘さんが女将として引継ぎ、月日が育んだ庭園とスタッフは味わいのある四季の懐石「桜茶屋」として地元だけでなく、大勢のリピーターで連日にぎわっている。

門から玄関へと続く庭の飛び石も周辺と平らにすることで風情を壊さず高齢者への配慮がなされている。玄関から客室への通路も畳敷きになっている。これもスリッパを、履かないで済む高齢者にも優しい配慮がうかがえる。

お部屋も増築に増築を重ね現在8部屋に和室で統一されているが、建てた時の先代の気持ち色が濃く反映され茶室を含め皆それぞれに味わい深い空間を構成されている、建具も部屋によって違うので見どころの一つである。



## 地元・羽生市での取り組み

第9回

### 祭りだワッショイ

地元相生町で町内役員の役を父から引き続き3年目。  
町内活動は色々あるが、なんといっても最高のイベントは夏祭り。

当日、羽生市の本町通りには、こんなにも若い人がいたのかというくらい大勢の男女が浴衣で練り歩いている。

男手は御輿に駆け出されているから歩いているのは、ほぼ若い女の子。これだけ見ると羽生にも未来があると錯覚してしまう。



羽生てんのうさま夏祭り



祭りの華「神輿」

そんな祭りを開催するために町内役員は動き出す一か月以上前から半纏チェック、備品チェック、日程のすり合わせ、用意する物手配する物、最大の難関は担ぎ手の手配。かつては各町内で若い担ぎ手を揃えられたが今では3割にも満たない。残りは祭り好きの若者を人伝に集める。1台の御輿に100名の担ぎ手が必要なのだから羽生市では夏祭りに総勢1000名の担ぎ手が必要なのだ。

昼間の子供御輿は去年から断念して子供山車だけになった、何と言っても子供がいない。私が子供のころは山車に乗るのが憧れだった。子供御輿も選ばれた子供しか担げなかった。

それも今は昔、今は大人御輿も存亡の時期を迎えている。  
それでも夏祭り当日、浴衣を着た大勢の男女を見るとこの伝統は続けなければと思う。

## 匠の仲間たち

わたしたちがいつもお世話になっている心強い匠たちをご紹介しますコーナーです。

▶ file no.009 有) 新久建設  
新久 良一さん



PROFILE  
生まれ：昭和25年  
出身：羽生市

先代は農業の傍ら頼まれて畑の土を田んぼにするため搬出したり、家を建てるので土盛りをしたりをトロッコやリヤカーを使ってやっていた。

その内、頭の手伝いをしながら見よう見まねで仕事を覚え、腕のいい職人を雇い入れ土建業を始める。二代目は昭和43年高校卒業と同時に家に入り仕事を始めるが20歳の時、勉強しようと思い大宮の職業訓練所で3か月勉強。

丁度建築ブームに乗り建築の基礎工事を中心に解体、足場、ブロック積と外構一般をこなす。一番忙しい時は一か月で13棟の基礎工事をこなした。

昭和58年より有限会社となり住宅の基礎工事を中心に外構工事を何でもこなすエキスパート。